

令和 6 年度名古屋民俗研究会 5 月例会

令和 6 年 5 月 22 日（水）
名古屋市東生涯学習センター
18：30～

奥三河の人形芝居 —豊田市稲武地区「小田木人形座」の事例—

天野卓哉

1 はじめに

豊田市稲武地区はかつての北設楽郡稲武町であり、「奥三河」を構成していた。北設楽郡稲武町は「平成の大合併」のもと、平成 15 年（2003）に東加茂郡に組み込まれた後に平成 17 年（2005）に豊田市と合併して稲武地区となった。今回発表する人形芝居があった小田木の集落は稲武地区の西端にあり、行政区は合併前では大字、合併後は小田木町となっている。令和 6 年（2024）4 月 1 日現在、人口 191 人（男 93 人／女 98 人）、世帯数 80 戸、65 才以上の人口比率は 58%である。

2 愛知県有形民俗文化財「人形浄瑠璃の首と衣装」

小田木には人形座があり、人形芝居が明治 8 年（1875）頃までおこなわれたという。人形首と衣装が残され、「人形浄瑠璃の首と衣装」として昭和 42 年（1967）に愛知県有形民俗文化財に指定された。その始まりは詳らかではないが、残された人形首には在地で製作されたとみられる「宝暦貳歳」（1752）の紀年銘をもつものがある。この紀年銘は、現存する銘では 2 番目に古いことで知られ、18 世紀中頃には人形芝居は始まっていたとされる。

この小田木の人形芝居を最初に紹介したのは早川孝太郎であった。早川は現地に入って調査し、昭和 3 年（1928）に「三河北設楽郡の人形芝居」（『民俗芸術』1 巻 2 号）を発表した。その後、小田木に残された人形首は研究者の注目を集め、当時の稲武町教育委員会から解説冊子が昭和 41 年（1966）と昭和 54 年（1979）の 2 回にわたって刊行された。その後、加納克己によって稲武町教育委員会保管資料と小田木の氏神・八幡神社に残された資料の人形首 53 点が再検討された。続いて鬼頭秀明によって『新修豊田市史』の中で小田木の人形芝居について記述されるに至った。

3 小田木人形座の「復活」

上演が途絶えても地元では愛着と敬意をもって人形首を保存してきた。八幡神社には三番叟の人形と白尉・黒尉の面が保存され、秋の例祭には今も神前に供えられている。地元では人形座の「復活」への思いはあったものの、現実的な話では無論なかった。

具体的に動き出す契機となったのは、平成 22 年（2010）から始まる公益財団法人豊田市文化振興財団主催の「農村舞台アートプロジェクト」においてであった。豊田市山間部に残る農村舞台を地域資源（文化資源）と捉えてアートとライブの場とし、地域文化の活性化を目的とする事業の中で「小田木人形座」の復活が模索された。平成 25 年（2013）

に準備会が立ち上がり、平成 28 年（2016）に「小田木人形座」が正式に発足した。人形芝居は三番叟から始め、往時の三番叟の所作はわからないために長野県飯田市の黒田人形から舞を習得した。浄瑠璃については知立まつり中新町に通って指導を受けた。平成 29 年（2017）には相模人形芝居下中座の指導を受けて「壺坂霊験記」がレパートリーに加わり、独り立ちできた意味を込めて令和 4 年（2022）に旗揚げ公演が実現した。

4 小田木人形座への視点—民俗芸能の成立と伝承—

「一仕事十年」ともいえる「小田木人形座」の歩みを検討するとき、その視点として民俗芸能の成立と伝承のあり方について思いが及ぶ。各地に伝わる民俗芸能は、最初から民俗芸能ではなく、様々な交流のもとで試行錯誤しながら徐々に地域の中で培われ、持続可能性を担保しながら民俗芸能となっていくのではない。民俗芸能の成立過程を追跡できる可能性を指摘し、「小田木人形座」の取り組みについて若干の私見を述べていきたい。

5 おわりに

○小田木人形座から考える「民俗文化の伝承&地域おこしの仕組み」私見

■民俗芸能の成立とは？

→マクロは「文化の伝播」、ミクロは「ご縁です」

■会員数 9 名＝人形遣い 3 名×2、浄瑠璃（義太夫）3 名

→「バカモノ・ワカモノ・ヨソモノ」の必要性

→当初の道具は手作り（人形・小道具）

→北設楽郡東栄町御園から指導

■お金（予算）の確保

→かつては「人形田」で捻出

→今は「わくわく事業」（豊田市の地域自治システム「都市内分権の推進」、中学校単位）

■実は高校生が大事？

■だが、地域は決して一枚岩ではない・・・

【参考文献】

早川孝太郎「三河北設楽郡の人形芝居」『民俗芸術』1 巻 2 号、1928 年（宮本常一・宮田登編『早川孝太郎全集』3 巻所収、未来社、1973 年）

小田木人形保存会『小田木人形座考』稲武町教育委員会、1966 年

小田木人形保存会『小田木人形座』稲武町教育委員会、1979 年

加納克己「小田木人形のかしらと歴史」『人形劇史研究』6 号、1995 年

稲武町教育委員会『稲武町史 民俗資料編』稲武町、1999 年

加納克己『日本操り人形史—形態変遷・操法技術史—』八木書店、2007 年

新修豊田市史編さん専門委員会『新修豊田市史 別編 民俗Ⅲ 民俗の諸相』豊田市、2017 年

天野卓哉「小田木人形座」『まつり通信』599 号、2019 年

農村舞台アートプロジェクト実行委員会『農村舞台アートプロジェクト 10 周年記念誌』公益財団法人豊田市文化振興財団、2023 年